

進捗状況の概要

本補助事業（学修成果の可視化）の目的はこれまでの教育・研究活動等の改善を図り、教育課程の体系化、学生自らが自身の学習目標の設定・達成度評価を行うシステムを構築しつつ、良き職業人の育成を目的とした教育体制を構築することにある。具体的には、「Ⅰ 高校教育から大学教育へスムーズな接続（高大接続）ができる教育・指導体制の改善」、「Ⅱ 初年次教育の充実：自ら学ぶ習慣を持つ学生の育成」、「Ⅲ 社会状況に伴って変化する学生の希望分野に柔軟に対応できる教育体制の構築」、「Ⅳ 学びの過程における達成度評価システムの確立」、「Ⅴ キャリア教育の徹底による良き職業人の育成」、「Ⅵ 学生・社会の要望を反映した教育改善体制の構築と実践」、「Ⅶ 教育改革加速」までの一貫した事業推進の経緯となっている。平成 26 年度に設置した教育改革委員会が活動を牽引した。各取組に付き、平成 27 年度進捗状況を以下に示す。

「高大接続」取組ではeラーニングを部分導入しインターネット入学前交流講座を新規開講し、継続事業である入学前交流講座と併せることで学修時間を拡大した。本事業ホームページ上に「高校生の皆さんへ」というサイトを設置し、高校生の自ら学ぶ習慣を触発した。継続事業である八戸工業大学高大連携推進協議会、大学見学会、高校出前授業を実施し、高大情報共有化を推進した。

「初年次教育」取組では、ラーニング・ポートフォリオⅠによる学びの振り返り習慣の醸成活動を推進、学生は、平均4.1件自らの振り返りを記入し、学生書き込み数の73.8%に対し教員コメントが返されていた。従来から面談で進めてきた個性重視教育の仕組みが強化されたことを確認した。双方向、グループディスカッション教育機器、初年次教育用理解度測定器を導入し、セミナー形式授業で使用、教育実践への有効性を確認した。

「教育体制の構築」取組では、地域の特色を活かした科目の内容を検討した。CAP 制、PBL 科目導入を検討した。カリキュラムマップ・ツリー（教育課程の可視化）を全学的に整える作業に着手した。

「達成度評価システム」取組では、学修成果を「授業に関わる学修成果」および「教育課程に関わる学修成果」から可視化する方針を確認し、前者に関しては、ルーブリック評価事例をFD研修会で紹介し合い、情報共有化を図った。授業の達成度評価に関わる測定変数を20個暫定的に定義し、前期と後期に授業評価アンケートを実施した。集計結果より、授業の中には宿題頻度が高くなく、宿題取組度も高くない科目があることが分かった。授業評価変数の評点が低い授業に関し教員フィードバック後、教育改善が進み難い授業に関しては、部局長が組織取組を促すという申し合わせが合意された。後者に関しては、大学教育目標の属性としての修得因子を20個暫定的に定義し、達成度評価システムを構築、PDCAサイクルを一巡させた。文部科学省答申中の学士力、生きる力、経済産業省提言中の社会人基礎力などの社会接続変数、高大接続変数の達成度を学生意識調査アンケートで把握し、教育改善活動の指標として提示した。満足度調査アンケートを全学生を対象に実施し、満足度を教育支援環境の可視化指標とした。

「キャリア教育の徹底」取組では、上記ラーニング・ポートフォリオⅠの活用により進路設計に関わる個人指導を強化した。首都圏および地域の企業に学科学生が訪問し、絆を結ぶ学習機会を設定した。

「教育改善体制の構築と実践」取組では、学生の要望を反映させるべく、初年次学生が抱えている将来の進路や夢を調査し分析した。貢献分野と希望学生割合は、「産業基盤を支える技術の維持発展」が 47.1%、「第三次産業を含む多様な世界での力量発揮」が 24.6%、「新しい価値の創造及び技術革新」が 2.6%、「起業・新事業化」が 0.5%であった。社会の要望を反映させるべく、上記 20 個の修得因子の重要度に関し企業調査アンケートを実施した。卒業時学生の「日本語コミュニケーション・スキル」達成度は 63.7 であったが、企業の重視度は 83.0 と高く、教育改善の必要性が示唆された。

「教育改革加速」取組では、入学前から入学後の学生が辿る学修履歴を把握するための学修成果可視化教学システムを定義、構成要素を検討した。ティーチング・ポートフォリオの内容を検討、アカデミック・ポートフォリオに関する情報収集を行った。